



狛江市コミュニティ・スクール
イメージキャラクター
コミュちゃん

コミュニティ・スクール通信 NO.5-1

～ 三中ゾーンの小中連携イベントづくり～

発行/令和4年10月 発行者/学校教育課 担当/地域学校連携支援マネージャー石谷

狛江市におけるコミュニティ・スクール（CS）の周知と推進を図るため、「コミュニティ・スクール通信」と題して、シリーズ（月1回発行）でお知らせします。

地域が関わるこれまでの行事とCSが主体となるこれからの行事

三中ゾーンの事例を紹介する前に、コミュニティ・スクールとしてゾーンの学校運営協議会ができたことにより、地域学校連携行事の取り組み方がどう変わっていくのか考えてみました。

地域ぐるみで地域の子どもたちを育てていく取り組みは、「育成委員会」はじめとしてこれまでもありました。しかし「学校運営協議会」という新しい組織を通して、学校と地域が共通の目標をもって進めていくことは、これまでとの大きな違いです。共通の目標が設定されると、一貫した姿勢で取り組むことができ、子どもたちへの教育効果も大いに期待できます。勿論、従来からある育成委員会と学校運営協議会が協力して、一体的に行事を推進していくことも可能です。

これまで（CS導入前）



中学校行事

子どもたちのため

地域行事



小学校・地域協働行事



各学校や地域の団体が、子どもたちのために、それぞれに行事を企画・運営していた。三中ゾーンでは「银杏募金」や「第三育成行事」などが有名で、定着している。

これから（CS導入後）

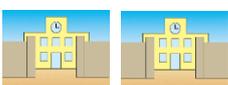
ゾーン合同行事



地域



学校運営協議会



小中学校

子どもたちにとって
9年間の義務教育を修了したときの子どもたちの姿（目標）を共有

- ・小中連携（小中一貫）
- ・社会総がかり
- ・地域が学校の応援団

小中それぞれに行っていた行事を一本化し、ゾーンの特色・目標に合った形にリメイクすることで、より行事の目的を明確化でき、子どもたちへの教育効果もさらに期待できる。